



西山浄土宗

大陽山阿彌陀寺

山門落慶法要

晋山式

記念誌

京都府相楽郡精華町北稻八間

大陽山阿彌陀寺

御挨拶

去る九月十八日、心配された雨も上がり晴天のもと、当山山門落慶及び晋山式を無事終えることができました。これもひとえに仏、歴代祖師・上人のご加護、各御寺院様、そして壇信徒の皆様のおかげとありがたく思っております。

まず、当山山門新築にあたっては、壇信徒の皆様から多くの御寄進をいただき、各業者の皆様のご尽力により立派な山門を完成していただきました。厚く感謝しております。関係者の皆様にも本当にお世話になり、ありがとうございました。この山門新築は、先代住職隆秀上人の念願でもありまして、落慶法要は当初、隆秀上人住職歴五十年を記念して執りおこなう計画でありました。昨年十月の突然の遷化により、住職歴五十年を記念することはできなくなりました。ですが隆秀上人もきつと浄土で、この山門落慶を喜んでいるのではないかと思います。

さてこの度、第三十三世明空隆秀上人のあとを受けて、私不肖晃昌が当山阿弥陀寺の住職に就任することになりました。浅学非才で未熟者の私に当山阿弥陀寺の住職という大任を無事努められるか、甚だ心もとなく思っております。隆秀上人の遺志を継ぎ、微力ながら鋭意専心努めさせていただきます。所存でございます。

何卒、皆様の御指導御鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

平成二十三年 九月吉日

合 掌

大陽山阿弥陀寺 第三十四世 晋住沙門 慈空晃昌

阿弥陀寺の歴史

開創の時期は不明、山号は大陽山、寺号は阿弥陀寺、天保元年（一八三〇年）に火災に遭うが、翌年天保二年（一八三一年）七月十二日に再建されたと伝えられている。

浄土宗、河内国佐太村の来迎寺及び山城の国栗生の光明寺の末寺であったが、昭和十七年五月より栗生の光明寺の専属となった。

現在の本堂は昭和五十八年（一九八三年）に建立、九月十一日に落慶法要が行われている。

山門について

旧阿弥陀寺山門は、棟札によると嘉永元年（一八四八年）に建立と記されている（江戸時代）。それから約一六〇年余が経過している。

嘉永（かえい）とは、弘化（こうか）の後、安政（あんせい）の前。一八四八年から一八五四年代、この時の天皇は孝明天皇。江戸幕府将軍は第十二代徳川家慶、十三代徳川家定である。

今回の建替えの背景には、老朽化が激しく雨漏りがして瓦がずり落ち、修理をしなければならない状況となった。費用面において修理は建替えと同額程度必要であり、検討の結果建て替える方向へと進み、檀家集会で諮ることとなった。

平成二十一年九月五日檀家集会を開き、全員の賛同を得て建て替えることに決定した。

事業内容は、山門の建替え、境内整備、完成記念法要の実施等である。

施行計画は、平成二十一年度は計画確定、資金計画の確定をする。平成二十二年度は工事施工、平成二十三年度で完成記念法要の実施となる。

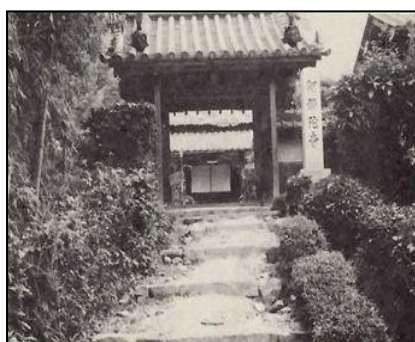
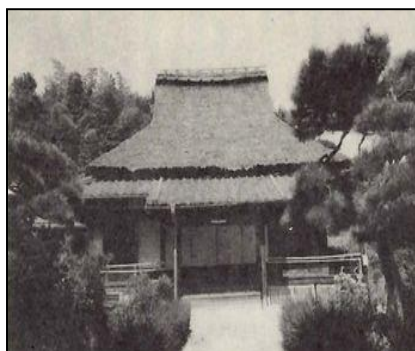
事業費は山門建替工事 一八〇〇万円、境内整備 三〇〇万円、諸経費 一〇〇万円の予定、合計二二〇〇万円。財源確保は檀家寄進七〇〇万円、寺特別会計 五〇〇万円、永代祠堂積立金 一〇〇〇万円、合計 二二〇〇万円。

以上檀家の皆さんの寄進をはじめ以上の状況で建替え事業を進めることになった。

平成二十二年五月六日工事を着工し、同年九月一日上棟式を行った。それから一カ月後、先代隆秀住職が病に臥せられ、新山門落慶法要を待たず、十月七日帰らぬ人となられた。突然の先代隆秀上人の逝去に伴い、晃昌上人の一日も早い後継が望まれ、晋山式と山門落慶を兼ねる運びとなった。

平成二十二年十二月二十六日めでたく新山門が竣工、平成二十三年一月三十一日境内整備も整った。

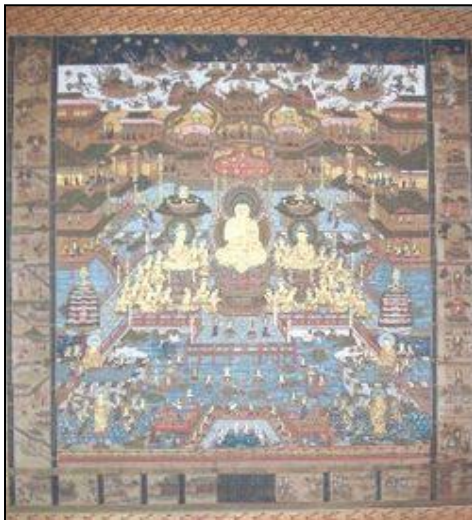
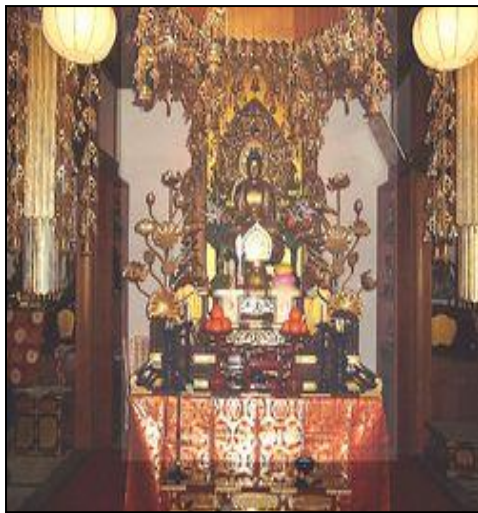
そして、平成二十三年九月十八日落慶法要と晋山式が行われた。



阿弥陀寺山門建設及び晋山式経過

- 平成二十一年九月五日 檀家総会
- 平成二十一年九月五日 事業計画
- 平成二十一年十二月吉日 浄財納入について
- 平成二十二年一月二十五日 見積説明会（区内檀家二業者）
- 平成二十二年三月十六日 見積もり提出
- 平成二十二年三月二十五日 契約（株）大仙工務店 一九〇〇万円で契約
- 平成二十二年五月五日 山門取壊しお祓い
- 平成二十二年五月六日 工事着工
- 平成二十二年五月二十一日 木材原寸確認
- 平成二十二年六月二十九日 基礎工事
- 平成二十二年六月三十日 境内整備契約（株）大仙工務店 四八〇万円契約、追加工事六十三万円 計五四三万円
- 平成二十二年七月一日 鬼瓦確認（奈良瓦道）
- 平成二十二年七月七日 境内整備開始
- 平成二十二年七月十二日 材木検査
- 平成二十二年九月一日 上棟式

- 平成二十二年十月 十日 明空隆秀上人表葬儀
- 平成二十二年十二月二十六日 新山門竣工検査
- 平成二十三年 一月十四日 晋山式、落慶法要打合
- 平成二十三年 一月十八日 岡田仏具店落慶法要記念品打合せ
- 平成二十三年 一月三十一日 境内整備竣工検査
- 平成二十三年 三月十三日 檀家総会打合せ
- 平成二十三年 三月二十一日 檀家総会最終打合せ
- 平成二十三年 三月二十七日 経過報告等檀家総会
- 平成二十三年 四月十九日 宗祖法然上人八〇〇年御遠忌
- 平成二十三年 四月二十九日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 五月 十日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 五月二十三日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 五月二十八日 岡田仏具店落慶法要記念品打合せ
- 平成二十三年 五月三十一日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 六月二十五日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 七月 四日 落慶法要、晋山式他打合せ



- 平成二十三年 七月三十一日 慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 八月 九日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 八月二十五日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 九月 五日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 九月 十日 落慶法要、晋山式他打合せ
- 平成二十三年 九月十七日 落慶法要、晋山式準備
- 平成二十三年 九月十八日 落慶法要、晋山式実施



旧山門

旧山門棟札

(表) 天下和順日月清明風雨以時災厲□起

国豊民安兵戈無用

(梵字バン) 表門造立

皆嘉永元巳申年春(一八四八年)

惣壇那中

現住

伝空謹識



(裏)



※ 精華町教育委員会で解説して頂きました



平成二十二年 五月五日
山門取壊しお祓い

平成二十二年 五月五日
隆秀住職と共に



平成二十二年 五月六日
工事着工





平成二十二年九月一日上棟式



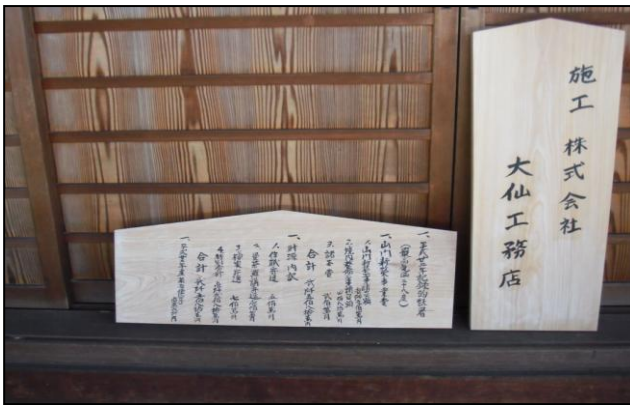
平成二十二年十二月二十六日
新山門竣工



平成二十三年一月三十一日
境内整備竣工



新山門棟札



大陽山阿彌陀寺新山門棟札解説

平成二十二年九月一日（水）棟札を、旧棟札及び九月一日付け新聞（朝日新聞、毎日新聞、京都新聞）三紙共に納める。

「棟札に記された祝聖文（天下和順之文）の開設」

無量寿経下巻より引用。平和の祈願、堂宇の落慶、修正会など主に祝いの法要の際に使用。上棟式の棟札にも書く。

天下和順（てんげわじゅん）

日月清明（にちがつしやうみよう）

風雨以時（ふうういじ）

災厲不起（さいれいふき）

国豊民安（こくぶんなん）

兵戈無用（ひやうがむゆう）

崇徳興仁（すとくこうにん）

務修礼讓（むしゅらいじよう）

天下は和やかで順であり、日月は清明に（あって）、風雨は時を以て（吹き降り）し、災いや疫病も起こらず、国は豊かにして民はやすらかに兵戈は用いることも無く、徳を崇め仁を興し、務めて礼（儀と謙）讓を修められん。

阿弥陀寺山門落慶法要・晋山式

出立回向

庭儀式

開門式

晋山式

一、入道場

一、辞令伝達

一、過去帳を授受

一、続経

一、晋住挨拶

一、来賓祝辞

一、祝電披露

一、感謝状授与

一、総代謝辞

一、退殿

その後祝膳

参列寺院

蓮台寺（大竹辨学師）

寶住寺（伊藤高義師）

来迎寺（伊藤順芳師）

善修寺（堀田英彰師）

安楽寺（原田観昭師）

鹿背山西念寺（田辺英夫師）

西蓮寺（成田隆徳師）

長福寺（淀川隆顕師）

安福寺（八田聖晋師）

山田西念寺（水野輝久師）

乾谷光明寺（坂口直典師）

安養寺（脇坂元博師）

西蔵寺（田中宏祐師）

善修寺 資（堀田俊英師）





庭儀式 集会所から山門まで行列



開門式



歴代上人の墓に回向



晋山式 晋住挨拶







謝 辞

本日ここに、大陽山阿弥陀寺山門落慶法要並びに晋山式を挙行されるに当たり、本山西山浄土宗光明寺ご代表様を始め組寺、法類のご寺院様のご臨席を賜り盛大に出来ますこと衷心より厚くお礼申し上げます。

又、阿弥陀寺様ご親戚の皆様方並びに檀信徒の皆様方には、ご多用のところ多数ご出席を賜り心より厚くお礼申し上げます。

かえりみますと、山門建替事業につきましては、旧山門が建築後百六十余年が経過して老朽化が進み改修に係る費用が多大となるため平成二十一年九月檀家集会で新築する事の決定をして頂きました。檀信徒の皆様、住職様、曼荼羅講様より多額のご寄進を頂き平成二十二年度に建築工事を実施し、平成二十三年度宗祖法然上人八百年御遠忌法要と先住明空隆秀和尚の住職歴五十年を記念し併せて山門落慶法要を実施する計画でまいりました。しかし、残念にも、明空隆秀和尚は工事半ばで浄土へ旅立たれ、さぞかし無念であったろうと思います。竣工予定は、約二ヶ月遅れましたが境内整備工事と併せて、平成二十二年度末に完成をすることが出来ました。

これも、施工をして頂いた株式会社大仙工務店様を始め関係者の皆様方のご理解とご協力と、多額の浄財をご寄進頂きました檀信徒の皆様方のお陰と厚くお礼を申し上げます。有難うございました。

また、晋山式につきましては、先住が昨年十月にご逝去され、当時副住職として務めて頂いて頂いておりましたご子息の小野晃昌師が新任職として本山のご承認のもと務めて頂くことになりました。檀家一同にとりまして、これ程ありがたいことは御座いません。

ご臨席を賜りましたご寺院様には、先住明空隆秀上人同様にご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

晋住は、現在教職員として重責な立場におられ、その上に多忙な法事を勤めていただいております。これも奥様を始めご母堂様、ご子息様と家

族皆様方のご協力のお陰であり、若きと英知でこの激務を乗り越えてもらっていることに檀家一同は、感謝の念でいっぱいでございます。

このことは、今は無き先住明空隆秀上人様のご加護の賜物でございます。

私は、今、阿弥陀様の側からニツコリと微笑んで見て頂いている先住のお姿が目には浮かびます。有難う御座いました。

阿弥陀寺にゆかりのある有縁・無縁のご先祖の霊位のご加護に感謝を申し上げますと共にご臨席を賜りました皆様様に重ねてお礼を申し上げます
辞と致します。

合掌

平成二十三年九月十八日

阿弥陀寺檀家

総代代表 田中善次

付記

山門落慶法要並びに晋山式にあたり、記録写真の提供をいただいた「けいはんなmovieサークル」の皆様誌面を借りて厚くお礼申しあげます。

西山浄土宗で用いる二つの紋について



西山浄土宗の宗紋は『竜胆車（りんどうぐるま）』です。『久我竜胆（こがりんどう）』とも呼ばれ、流祖西山上人が幼少期に久我通親（こがみちちか）の猶子（養子）となったことに由来します。



もう一つの紋は、宗祖法然上人の生家、漆間（うるま）家由来の『杏葉（ぎょうよう）』紋です



旧山門に使われていた櫓の柱から、数珠を作り、山門落慶法要記念としてお渡しいたしました。

西山浄土宗 大陽山 阿弥陀寺

山門落慶法要
晋山式

記念誌

編集者

住職 小野晃昌

現寺総代 田中善次 田中隆

川井充朗 寺島展正

前寺総代 上野英彦 岩里良巳

印刷所 西本印刷株式会社

平成二十三年九月吉日